



## 第1回卒業生(中1回)の進路先～「見付中磐田南高百年史」より

	中1回	S2卒業	T14修了
	卒業生数	69	10
進学	高等学校	2	6
	大学予科	1	3
	大学実科専門部	6	
	専門学校	3	
	実業専門学校	6	
	高等師範臨時教員養成所	1	
	私立大学高等師範部	3	
	師範学校二部	8	1
就職	公務員	3	
	就職	12	
	入学準備	24	

先日皆さんに配布された「百年史」に、第1回卒業生の進路先が載っていました。写真で載っている表の数値と本文(26頁)の数値が若干異なりますが、本文の数値を使って紹介します。

大正11年(1922)4月の開校時に入学した100名の見中生は、5年後の昭和2年(1927)3月に69名が卒業しています。また、当時は4年生の終了時に旧制高等学校、大学予科の受験資格が得られ(四修)、10名が大正15年(1926)3月に修了しています。その79名(同窓会名簿には中学1回の卒業生は81名と記されています)の進路を左の表にまとめました。第1回卒業生の高等教育への現役進学率は39%、四修生も含めると48%となります。

第1回卒業生の頃、昭和初期の学校制度と進路のおよそのイメージを、下の表と図1にまとめました。戦前の教育制度は複線型という複雑な制度です。

	中等教育	高等教育
男子	中学校(5年)	高等学校(3年)－大学(3年) 専門学校(3年) 高等師範学校(3年)
	高等小学校(2年)－師範学校(5年) 実業学校(甲種3年)	高等師範学校(3年)
	実業学校(乙種3年) 実業補習学校	
女子	高等女学校(5年)	女子高等師範学校(3年) 女子専門学校(3年)－大学(3年)
	高等小学校(2年)－女子師範学校(5年)	女子高等師範学校(3年)
	実科高等女学校(4年)	

### ① 義務教育は小学校(尋常小学校)の6年間のみ

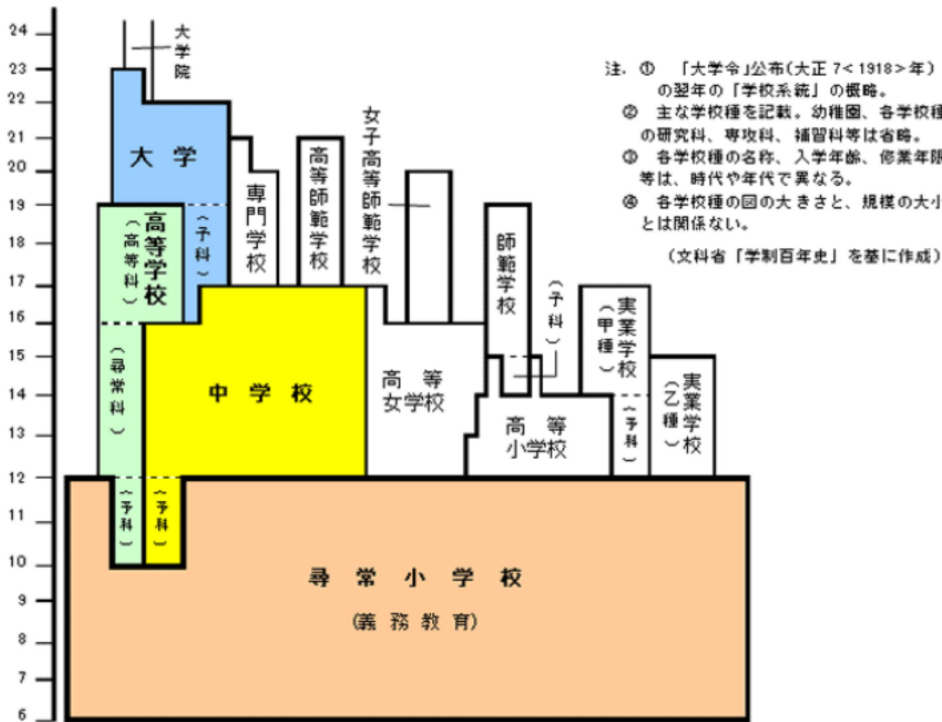
初等教育機関のコースとして「尋常小学校」で6年間の義務教育を終えた後、そのまま社会に出る、あるいは2年間の「高等小学校」に進むといったコースがありました。

### ② 義務教育修了後は男女別にコースが分かれる

旧制中学校は明治32年中学校令で「男子ニ須要ナル高等普通教育ヲ為スヲ以テ目的トス」と位置づけられたエリートの登龍門としての役割があり、中学校への進学率は6～8%と非常に低かったようです。また、中学校、高等女学校、実業学校の旧制中等教育学校への進学率は14%程度。高等小学校修了後師範学校に進学

するコースも人気がありました。見中1回生が生まれた1909年（全員が12歳で入学したわけではないのですが）の出生数は171万人。中学校への進学率を7%とすると中学校進学者は全国で約8万人となります。

●戦前の「学校系統」のイメージ図（大正8<1919>年） (図1)



左の図1は、大正8年現在の学校系統のイメージ図です。文科省学制百年史資料編を基に旺文社が作成した資料です。

磐田市内の公立高等学校は、戦前の中等教育学校を母体としています。  
 磐田農業高校(中泉農学校)  
 磐田北高校(見付高等女学校)  
 磐田西高校(中泉商業学校)

見中を卒業した先輩方はどのような進路をたどったのでしょうか。表中の進路先を順に説明します。

- 高等学校（3年制）：帝国大学および官立の旧制大学への進学のための教育機関。
- 大学予科（3年制）：特定の旧制大学に附属し、専門教育を行う大学本科（学部）に進学する前段階としての予備教育を行う機関。
- 専門学校（3年制）：専門的知識をもって社会で活躍する実務家を養成することを目的とした高等教育機関。宗教系学校、女子専門学校、医学専門学校、歯科医学専門学校、薬学専門学校、外国語学校など。医科専門学校は5年制。  
 大学実科専門部は旧制大学に附設していた専門学校  
 実業専門学校は実業学校のうち高等教育を実施する教育機関。高等商業学校・高等工業学校・高等農林学校など
- 師範学校（5年制）・高等師範（3年制）：初等・中等学校教員の養成を目的とした中等・高等教育機関。  
 師範二部は、中学校もしくは高等女学校卒業を入学資格とする本科第二部（2年制）のこと。  
 高等師範臨時教員養成所（2年制）は中等教員不足の対策として設置された教育機関。  
 私立大学高等師範部は中等学校教員の養成を目的とした大学専門部に属する教育機関

昭和2年当時の静岡県内の旧制高等教育機関は、静岡高等学校（静岡大学人文社会科学部・理学部）、静岡師範学校・浜松師範学校（同教育学部）、浜松高等工業学校（同工学部）、私立静岡女子薬学校（静岡県立大学薬学部）であり、現在は（）内にあるように、大学（或いはその一部）になっています。

大正から令和までの100年は、社会がそして世界が大きく変革した時代でした。その時々で社会が時代が要請する人材が変化していきますが、旧制中学や新制高等学校は、地域のリーダー、国を動かす人、世界を股に掛ける人を養成するという目的は今後も変化しないと思われます。磐南の101ページ以降の物語は、皆さんが作り上げていくのです。

